

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	山崎 晃男 (やまさき てるお)	所属	大阪樟蔭女子大学
連絡先 (電話・E-mail)	山崎 晃男 大阪府吹田市千里山西 4-39-C 805 (電話：06-6319-8056・E-mail: <a href="mailto:yamasaki.teruo@osaka-shoin.ac.jp">yamasaki.teruo@osaka-shoin.ac.jp</a> )		
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会聴覚心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 12 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>2012 年度は日本心理学会第 76 回大会において、「進化と異種比較から見るヒトの聴覚」と題したワークショップを開催した。</p> <p>ヒトの聴覚は環境についての情報を得るための重要なチャンネルであるとともに、個体間で言語等を介した複雑なコミュニケーションを交わすための基盤を提供する感覚でもある。こうした役割を果たすヒトの聴覚は、ヒトがヒトとなっていく長い進化の過程で獲得されてきたものである。したがって、生物の聴覚の進化史にヒトの聴覚を位置づけること、また異種動物の聴覚とヒトの聴覚を比較することは、ヒトの聴覚の特徴や機能について考えるうえで重要な示唆を与えてくれるはずである。</p> <p>こうした考えに基づき、岩堀修明氏 (長崎大学) より生物の聴覚の進化について解剖学の立場からの話題提供、脇田真清氏 (京都大学) よりヒトに最も近い種であるサル類の聴覚について霊長類研究の立場からの話題提供、中島好祥氏よりヒトの聴覚の特徴について聴覚心理学からの話題提供を受けたうえで、進化と異種比較から見えてくるヒトの聴覚についてフロアを交えて討議した。</p> <p>なお、当ワークショップでは、企画者を研究会代表の山崎晃男 (大阪樟蔭女子大学)、司会者を羽藤律氏 (桐朋学園芸術短期大学) が務めた。</p>		